

令和6年度第1回大刀洗町まち・ひと・しごと創生
総合戦略審議会 書面開催結果

大項目	中項目	小項目	ご意見	担当課・事務局	いただいたご意見等に対して
(1) 第2期総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）について	①資料1. 総括について ご質問やご意見、ご助言がありましたらご記入ください。	-	<p>【委員】1-3-1 外国人人口の増加という観点で、国籍別の割合、就労先などが分かれれば資料に掲載して欲しい。</p> <p>【委員】地域、町を運営していくうえで、人口をいかに確保していくかは重要な課題と考えます。この点、自然増での人口増加が見込めない中で、社会増による人口増加が起きている傾向そのものは非常に評価できると考えます。これまでの町政の成果だと言えるかと存じます。一方、外国人居住者の増加は喜ばしい現状であるものの、地域にそれまで長く住んでいる人々の交流・相互理解をどう進めるかという点でも重要かと考えます。これを排他的に考えるではなく、いかにバランスが取れた関係性に導くかは町、校区との関わり方とも関わってくると考えます。引き続き、良好な関係が築けることを期待しています。</p> <p>【委員】人口は、2019年比100人増加と定住促進住宅整備事業の効果も認められる。今後も高い入居率の維持と移住定住相談事業(ワンストップ窓口)の充実を図り入口維持・増加を期待する。</p> <p>【委員】4-1基本目④において、引き続き、町民ニーズを把握し、住民サービスの向上につとめていく必要がある。について町民ニーズの把握の具体的な方法、住民サービスの個別の取組内容が必要ではないでしょうか。</p> <p>【委員】第2期総合戦略の総括については、簡素に良くまとめられていると思います。「6-1おわりに」にまとめられているように、他の多くの自治体が、人口減や少子高齢化の課題に対し中々成果を上げられない中、本町は、目に見える効果を出している事は、この第2期総合戦略によるとの取組などの成果も大きいと思います。この流れを活かし、今後の第3期の総合戦略で、新たな目標のもと“よかまち”づくりが推進されることを期待しています。</p> <p>【委員】・4ページ「外国人人口の増加」について、「詳細な分析（年齢層、滞在年数、単身世帯か複数世帯か、定住者比率等も含めて）を知りたい」という印象を持ちました。2023年度末の外国人人口（597人）は町全体人口（1万6047人）の3・7%を占めています。10年前の13年度末（外国人人口194人が全体人口1万5507人に占める割合1・25%）から2ポイント超伸びており、「人口の伸びの一因では」と推測しました。それが町の「出生率推移」にどう影響しているのかも気になります。</p> <p>【委員】今期に於いては、次期の総合戦略にKPIの設定がアウトカムでなくアウトプットになっている事が多い。そのため事業内容の「目的」と「目標」が曖昧になってしまったまま評価されている状況も散見される。現行の「よかまち創生プロジェクト」の内容自体が、平成27年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定時審議会に於いて事務局自身がKPI設定に関して言及されていた内容と異なっており（参1）、結果、本来であればKPIを基にPDCAサイクルで事業遂行されるべきところがなされておらず、各事業に関しての職員の労作に比して住民側にもたらされた効果・期待されるべき効果に反映されていない状況があるようと思われる。 昨年度の審議会においても、KPIの位置づけ・精査については言及されていたがタスクフォースからのコメントでもその点が指摘されているものが散見され、この機に全体でKPIやPDCAサイクルに関してすり合わせが必要ではないかと思う。（参：平成27年7月28日 第2回 まち・ひと・しごと創生戦略審議会 議事録）</p>	企画財政課	<p>外国人の増加について（資料別紙1） ・国籍別の割合については、別紙資料をご参照ください。就労先や滞在年数、世帯構成等については、詳細データは持ち合わせておりませんが、在留資格としては、技能実習（1号口、2号口）、特定技能1号が6割以上を占めています。 ・外国人の人口の伸びへの影響については、外国人の人口の伸びが一定程度本町の人口増に寄与していると認識しています。別紙1社会増減における日本人・外国人の内訳において、2023年、2024年は社会増のうち外国人の社会増が全体の6～8割を占めています。一方で、2017年、2020年は社会増のうち日本人の割合が8割以上となっており、その年によって異なる場合もあります。なお、ご意見をいただいた出生率の推移については把握しておりません。</p> <p>町民ニーズの把握方法・住民サービスの個別の取り組み内容について 町民ニーズの把握方法については、アンケート調査や聞き取り調査、会議体によるニーズ集約等の様々な手法があり、施策や分野に応じた手法で町民ニーズや地域課題等の把握につとめたうえで、必要な住民サービスの検討をしていきたいと考えています。</p> <p>KPIの設定およびPDCAサイクルについて 第2期よかまち創生プロジェクトにおいてはKPIの設定がアウトプットの指標が中心となっていることは以前よりご指摘いただきました。ご指摘の内容を踏まえ、国の手引きや他市町村の事例を参考に、今年度発足した検討会や担当課と、実効性のあるKPIの設定やPDCAサイクルについて協議を行いたいと考えています。</p>

<p>(1) 第2期総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）について</p>	<p>②資料1. 総括に関連し、本町の人口の地域差についてどのように考えますか。ご意見やご助言がありましたらご記入ください。また、人口が減少傾向にある大堰校区の人口減少対策や少子化対策を検討、推進する際に重視するべき視点やポイント、その他アイデアなどがありましたらご記入ください。</p>	<p>【委員】菊池校区に、ここ数年アパートが集中的に建設された結果、菊池校区の人口が大幅に増加したと思う。</p> <p>【委員】人口偏在の要因をどのように捉えるかかと思います。例えば、大都市でもいわゆるドーナツ化現象が叫ばれたかと思えば、今度は周縁部の人口減が問題になっています（東京都の多摩問題）。大刀洗では性格が異なるとは言え、古くから民家が密集する地域と新たに開発する余地があるところでは、ライフスタイルや好みによっても家の作りが変わりますし、道路が狭い、駐車場が確保できないなどの問題もあるでしょう。とりわけ、大刀洗では生産年齢人口の多くが車を主たる移動手段としていると考えられるため、車重視のライフスタイルにならざるを得ないと考えます。下記にあるように大堰校区の人口減少は大きな課題ですが、地権者や区画整理との関係性も合わせて論じざるを得ないので、中長期的な人口動態を見極めながらどのような町の設計にするかも重要なポイントになるかと存じます。</p> <p>【委員】交通利便性の格差が問題である。甘木鉄道、西鉄甘木線の維持確保と地域巡回バス（ひばり号）の利便性何上で交通利便性の改善をお願いしたい。</p> <p>【委員】大堰・大刀洗校区で地域差が見られると思うが、人口が減少することに比例している気がします。不足しているものを調べるのもありかも。</p> <p>【委員】人口の地域差については、地理的条件、環境等である程度やむを得ないと考える。地域の特性や資源を活かした町づくりを推進した方が良いと考える。町全体の医療機関や金融機関、商業施設、飲食店や娯楽、スポーツ施設など、いつでも行ける居場所やサークルなどの活動の場も少ないので、ある物を活用、情報を集約して、多くの町民に伝わる仕組みが必要。（SNSや、ホームページなどに偏らない）また、その限られた資源等を気軽に利用できるような移動手段等の整備が必要。</p> <p>【委員】・地理的や産業上の特性、交通網の実状、近隣自治体を含めた地域開発の状況などを踏まえれば、現状の地域差が生じているのは「やむを得ないのかな」という認識です。「地域差」に関する議会でのやりとりも過去2年にわたりて見聞きしてきましたが、「長年にわたり、いろんな自治体を（あくまでも広く浅くですが…）見てきた身」としては、「それでも相対的に見て、大刀洗は町内の連携がかなり機能している」という印象があります。大刀洗の場合、地域差が生じても、町域2.2・83%平方伝という「コンパクトな環境下の対応」で相応の部分は補えるのではないか、という見方もしています。「地域差をいかにカバーしていくか」という方向性を、地域特性の似ている自治体との比較を通して、深掘りするのもひとつの手段ではないかと考えます。</p> <p>【委員】一言で述べると、ある意味「必然」であり「人口数」での格差解消は困難。（何故なら後述の原因）単純に数（住民数）での格差の解消しようとすると、住民の生活の利便性の格差の是正を目標にすべきではと思う。</p> <p>①人口の地域差を生じさせてる原因 ②人口格差が生じたことによる問題点の有無・内容 ①について 日本国内でも既に論じられている「都市一極集中」の縮図が狭い町内で発生している。 生活地の選択基準の中で「生活利便性」はプライオリティは高くなりがち。 ・主幹道路の存在・位置関係/公共の交通機関の存在→近隣都市へのアクセス/生活インフラの充実→人口増→商業施設の充実化・のサイクル 現在の当町においても同様で地域現況でもデーター上明らか。（参1） 2001年～2004年頃、町内を横断・縦断していた西鉄バスの3路線が撤退し、西鉄大牟田線とのアクセスは一部の校区以外は、大きく迂回する形式の西鉄甘木線のみと利便性が著しく低下。 これに加え同時期には、数十年前は銅像だけが存在するような小さな公園が平成15年に大規模に拡張され「大刀洗公園」となり、「住宅都市化」された地域とそれらの存在しない地域が生じた。 人口減少に対して、移住推進を行い徐々に社会的人口増加に転じ、またそこに集う子育て世代の増加等功績もある一方で町内外問わず人の流れは「利便性」の良い地域へと動いている。 結果、「地域間の格差」の点に関しては移住促進を行えば行うほど格差を生じさせる一端になっている側面も皆無ではないと思われる。 (参1: 2022年（令和4年）3月 大刀洗町地域公共交通計画 資料編1 大刀洗町の地域現況)</p>	<p>企画財政課</p>	<p>人口の地域差について様々なご意見をいただきました。交通利便性や、生活サービス拠点の立地など生活するうえでの利便性や住宅開発の状況などによって、菊池校区は人口増加となっております。人口の地域差をどのようにどうするか、対策の必要性の検討などは引き続き、地域や審議委員の皆様のご意見をいただきながら、検討してまいりたいと考えています。</p>
-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>(1) 第2期総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）について</p> <p>②資料1. 総括に関連し、本町の人口の地域差についてどのように考えますか。ご意見やご助言がありましたらご記入ください。また、人口が減少傾向にある大堰校区の人口減少対策や少子化対策を検討・推進する際に重視するべき視点やポイント、その他アイデアなどがありましたらご記入ください。</p>	<p>【委員】 大堰校区は水害の危険が高すぎる為、水害対策を行うべきである。 西鉄甘木線の踏切を車で渡るのが危険過ぎるので、道路の整備を行うべきである（特に三原時計店前）。本来は役場周辺が人口増加すべきなのに殆ど増えていないので対策が必要だと思う。</p> <p>【委員】 この傾向は大きく変化しないのではないかと考えます。ただし、子育て（進学先やライフラインの関係から鉄道の重要性は失われないため、今後改めて住民や新たに居住する住民の皆さんから地域としてのポテンシャルが見直される可能性はあるのではないかと考えます。大刀洗町は古くから住んでおられる方と新たに入居されてきた方が混在しているでしょう。この10年、20年の人口動態から将来が予測できればよいのですが、この動きがどのようにして起きているのかを見極める必要があるだろうと思います。一番の理由は宅地開発や周辺交通網の変化による人口社会増と元来から住まわれている方々が亡くなることによる自然減であるように考えますが</p> <p>【委員】 水害対策や空き家調査の実施をおこない、町として斡旋できるとどうかと思います。</p> <p>【委員】 ・校区センターなどを活用し、野菜マルシェの充実（もっとマスコミ等でのPRに力を入れる）を図る。町内や町外から月何回か固定して大堰のお野菜を活かしたイベントを企画する。最初は季節ごと（収穫祭）から初めて充実していく。（今マルシェが開催されているようだが、知らない人が多い） ・人口を増やすことは容易でないので、交流人口を増やす、仕掛けを考える。床島堰、床島用水、大堰神社、北水道、南水道、小石原川や二又川、佐田川、桂川など河川の環境整備などを地域と一緒に取り組む。地域に愛着を持つ仕組みづくりを進める（地域の環境を守る会などの取り組みとタイアップ）</p> <p>【委員】 ・正直な話、お尋ねの問題を劇的に打開できるような妙案は思いつきません。当然、大堰校区の住民の方々の意向を第一に対処するのが肝要かと考えます。その上で、前述の「コンパクトな町内環境」「町民の意識の高さ（「平成の大合併」時の住民投票で町単独路線を選択して以降の諸々の改革／その結果、相対的に安定した財政状況を実現していること／出生率の回復に象徴されるポジティブな空気）」「地の利（福岡都市圏にも通勤可能な立地、町境エリアにコストコが進出し、筑後小郡インターの周辺開発が具体化しつつあるタイミング）」など、「大刀洗のストロングポイント」を踏まえて、大堰校区の産業基盤である農業をどう守っていくのか。複数のシナリオを作り、処方箋を考えのがベターと考えます。</p> <p>【委員】 人口格差が生じたことによる問題点の有無・内容について詳細・現状の把握が必要では。 ex1) 以下の問題点に関しては人口格差が解消されなくなる問題ではない。 1. 「人口減少のため自治会の役のなり手がない。高齢化がすすんでいる。負担が多い。」 →人口増の他の地域でも同様の問題になっている。 住民（若い世代）が増加しても解決になるとは限らない。 →自治会の係の整理・縮小化も視野に。 行政も「各自治会に一任」の姿勢でなく対策を一緒に検討。（4校区全てにおいて） ex2) 2. 公共の交通の便が悪い。 →仮に人口が増加しても移動困難者の状況は変わらない。（高齢者・ほかの年齢層でも自動車等の手段のない住民） →人口増加地域のように、公共の交通機関までのアクセスの充足化がなければ、更に人口減少につながる。 第5次大刀洗町総合計画内（参1）でも、「人口減少をポジティブに乗り切ろう」とあります。 住民数の減少＝すべてが問題ではないのです。 住民が、単に数で評価せず質・内容重視で自分たちの地域を評価できるよう「少子化」「高齢化」「人口減少地域」な言葉ばかりが先行しねがティ的な思考にならないように留意が必要かと思う。 また、町のかかわりとしては大刀洗町内4校区内で生じた人口格差が今後大堰校区内で生じないように留意が必要かとおもう。 富多地区は、甘木線の駅も近く他様々な生活インフラが比較的充足し水害も少ない。 必然的に人口増加傾向。一方で三川地区は…と大きな差が生じてきている。 (参1：第5次 大刀洗町総合戦略 資料編 校区別構想 大堰校区 (p134~135)) 限られた財源の使途決定は容易ではないと思うが、他4校区含め、町内での人口の格差＝生活のし易さ・利便性の格差にならないよう、単に費用対効果（利用者数等）や公平性や数の論理で図るのではなく、たまたま生活エリアが異なることで生じている日常生活の不利益に關しては「住民の生活の質の公平性」の目線で整備・介入していく必要があると思う。</p>	<p>企画財政課</p> <p>人口が減少傾向にある大堰校区の人口減少対策や少子化対策を検討、推進する際に重視すべき視点やポイント、その他アイデアについて、ご意見をいただきありがとうございました。人口減少の捉え方や大堰校区の強み、特色をいかした地域づくりを地域の方や審議委員の皆さまから引き続きご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えています。</p>
	<p>大堰校区の人口減少対策・少子化対策</p>	<p>【委員】 大堰校区について、どのような対策を実施するべきだと思います。</p> <p>【委員】 人口減少対策について、どのような取り組みを行っているのでしょうか。</p> <p>【委員】 大堰駅踏切の対策について、どのような取り組みを行っているのでしょうか。</p>	<p>建設課・総務課</p> <p>大堰校区水害対策について（総務課・建設課） 国が作成する河川整備方針及び河川整備計画に基づき河川の整備を行っているところです。また、令和5年10月から、小石原川左岸地区にお住まいで、緊急告知防災ラジオの貸出しを希望する世帯へ、ラジオの無償貸与を行い迅速な情報発信に取り組んでいるところです。</p> <p>大堰駅踏切の対策について（建設課） 令和4年度に福岡県の事業で交差点改良に着手しています。道路線形について、関係機関との協議をおこなっているところです。</p>

		全般	【委員】（個人的な意見です）個別事業の検証では、「近隣自治体と比較した上の視点も必要なのかな」という感想を持ちました。大刀洗の子育て政策が奏功しているのは、「よそに比べて大刀洗はすごい」という要素も反映しているのではと思います。ふるさと納税も同様でしょうが、現実問題として「自治体間競争」の中はどうやっていくかということかと。町組織内では当然やられてあるかとは思いますが、外部の目による審議会でも、「比較の視点」という物差しがあった方が、より立体的な考察ができるのではないかとも感じます。	企画財政課	近隣自治体との比較の視点については、今後の審議会や検討会において留意する視点として共有していきたいと考えています。
(1) 第2期総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）について	③資料2. 個別事業の検証について、ご質問やご意見、ご助言などありましたらご記入ください。	レンタサイクル事業	【委員】レンタサイクル事業について、継続するのであればもっと積極的な取り組みが必要だと思う。魅力的な観光スポット、商店の掘り起こしや情報発信が必要。1番のスポットの今村天主堂は10年近く活用できない。今の実績はただやっていますというレベル。	地域振興課	利用者需要はありつつも利用頻度が多くないことから、優先順位が低く、積極的な取り組みができていないのが現状です。町のアナバ紹介サイトFLATと連携してサイクリングコースの周知、また利用しやすいしくみ等検討していきたいと考えています。
		空き家利活用総合プロジェクト	【委員】移住が増えているのは、小都市等より土地代が安価、また、都市計画の関係で立てられる場所が残っているのも要因。空き地が少なくなれば、今後はブレークがかかる。今後は、核家族化の進展で空き家の急激な増加が予測される。今後は空き家の活用事業が急務と考える。	地域振興課	空き家バンクの登録は、随時促していますが、①所有者の意向②既に民間に仲介を依頼済み。等の理由により登録件数が伸びない現状です。空き家を活用するためにも、市場に物件を出しやすくするための方法（相続登記、残留品整理、リフォーム等）に対する補助を検討していきたいと考えています。
		創業支援事業	【委員】創業支援事業について認定連携創業支援事業者は大刀洗町商工会。小郡、久留米東部、大刀洗町商工会の共催で町内開催は3年に1回ではないか?特定創業支援計画の見直しにて、福岡県信組、筑後信金政策公庫との連携で町内開催を毎年実施する仕組み作りが必要。(直接的な町内起業につながる事業設計への見直し)	地域振興課	現状としましては、①一定数のセミナー参加者を確保するため。②開催費用対効果。等の理由により3商工会による合同開催という形をとっています。ご指摘のとおり、町内での実施は3年に1度となるため、今後は、オンラインでの受講も可能となるように参加しやすい手法等を検討していきたいと考えています。
		のりあい定額タクシー事業	【委員】前にも意見を書いたが、町内資源（医療機関や、商店、金融機関他）が、とても少ない、或いは全くない。周辺の市町村にある機関や施設等を利用して、生活が成り立っている。町外が2医療機関だけに限られているのは、とても不便。交通弱者の立場に立った整備を進めてほしい。どんな人もいつかは交通弱者になる。そうなっても安心して住み続けられる町を目指してほしい。	企画財政課	ひばり号は町内を気軽に移動できる交通手段として原則町内を運行エリアとしていますが、町境の距離、公共交通機関との距離等を踏まえ、鉄道・バスといった既存の公共交通を維持・確保していくという観点から、町外で2つの医療機関のみを運行エリアとしています。利用者は増加しており、地域公共交通全体のなかでのひばり号の役割や財政負担などをあわせて考えていく必要があると考えています。

<p>(2) 第3期総合戦略（大刀洗よかまち創生プロジェクト）について</p>	<p>基本の方針・スケジュール等に関して 基本の方針、スケジュール等に関してご質問やご意見、ご助言などありましたらご記入ください。また、第3期総合戦略において押さえたほうがよいポイントや検討すべき事項、ご意見、ご助言などありましたらご記入ください。</p>	<p>【委員】既に9月半ばを過ぎてはいるものの総合戦略検討会の進捗がどのような形式で行われているのか興味があります。 審議会的には11月に素案審議の予定となっているものの、3月の審議会の際に事務局からも「前期第2期から第3期に移行の際不十分な協議であった」と反省点として掲げてあったが、今回のこのスケジュールは適切なのかこの先5年の事業の見通しをきちんと立てられるのか少々懸念するところです。最後に。 「計画の1サイクル5年」は事業を実施する側からみれば1サイクルですが、当たり前のことですが、今日生まれた子が次の時には5歳。 中学校に入学した子は高校2年生。。。。平成27年策定から10年経過し、その当時小学生だった子は成人し、まだ就労年齢だった人は定年を迎え、70歳代で元気だった人は要介護・死亡… それくらい人の大きな変化が生じています。</p>	
		<p>【委員】言うまでもなく、向こう5年間の動向を推測しつつ、適切な手をどう打つかが重要だと考えます。同時に、住まわれている住民の皆さん、あるいは潜在的に大刀洗に住みたいと考える皆さん、そして関係人口となり得る皆さんとの関係性をどのように構築するかがポイントになるのではないかと考えます。大刀洗のこれまでの良さを継続しつつ、いかに未来にそれを適合させていくか。そうした目線合わせが重要かもしれません。</p> <p>【委員】創業、事業承継への支援強化。交流人口増加による域内経済の活性化</p> <p>【委員】第2期総合戦略は、職員や関わられる多くの方々の努力によって、総体的には計画以上の成果を上げたと思う。第3期はその成果によって新しい住民になられた方々や、今までの住民の方々がともにこの町に来て良かった、住んでいて良かったと思えるような町づくりが必要だと思います。そのためには、子育て世代や若い世代対象の施策だけではなく幅広い世代に向けた施策が必要になる。子育て時期だけ町民で、終わったら出ていくような町では、本当に住みやすい町といえません。生まれ育った町で、或いは移住ってきて暮らして、最後まで安心して生涯を過ごせるような町、住みやすい町と言えるのには、まだまだ色々な、事業や施策が必要だと思います。第3次計画で、そのいくつかでも推進できるような総合戦略を期待します。</p> <p>【委員】①の項で挙げた「外国人絡みの要素」に関するものがあればと思います。繰り返しになりますが、今後の地域社会を展望する上で「地域にやってきた外国人とどう付き合うか」「どうなじんでもらうか」「定住したいという人材をどう支えるか」「定住外国人の子どもをどうサポートしていくか」などは、かなり重要な問題に発展していくのではないかという見方をしています。9月2日付の日本経済新聞朝刊「核心」面に「移民政策、社会統合が課題」と題して、英國社会の理想と現実とリスクに関するコラムが掲載されました。現実問題として、少子化が加速する日本でも今後真剣に向き合わざるを得ないという状況で、地方自治体が「国県がきちんととしたプランを示すまでは様子見」というのは、かなりリスクが大きいのではないかと思います。子ども関連対策と同様、問題意識を持った自治体かそうでないかは今後、かなりの差をつくり出していくのではないかという見方をしています。</p>	<p>企画財政課</p> <p>第3期策定におけるポイントやスケジュールに関するご意見をいただきありがとうございます。いただいたご意見は検討会等で共有し、第3期策定に取り組みたいと考えています。</p>
<p>(3) その他</p>	<p>ご意見、ご助言などありましたらご記入ください。</p>	<p>【委員】町長のマニフェスト(2024.2.28)より「道の駅」の実現による交流入口増。域内経済の活性化に期待している。</p> <p>【委員】担当者の方々は、大変なご苦労かと思いますが、私たちが住んでいるこの町で、高齢になっても便利な所に移住しなくてもいいように、生涯安心して暮らせるような町を目指してほしいと思います。</p> <p>【委員】（外国人絡みの話ばかりになってしまいません）町の「つながりの学校」「住民協議会」の場で「どう向き合っていくか」というテーマを取り上げるのは面白いのかなと、思います。「町オリジナルの二つの場」は、よその自治体が簡単にはまねできないレベルに達していると感じています。未実施であれば、やってみる意義はあるのではと考えます。</p> <p>【委員】過去の審議会・住民アンケートを再度一読されるのをお勧めします。異口同音の意見があがっています。</p>	<p>企画財政課</p> <p>いただいたご意見は担当課と共有し、必要に応じて協議してまいります。</p>